



請島のウケユリ

請島とその周辺の島々だけに分布し、日当たりのよい岩場に自生しています。5月下旬から6月に香りの強い純白の花を咲かせます。盗掘などを防ぐため、請島の自生地へ行くためには、瀬戸内町への申請と現地ガイドの同行が義務づけられています。請島の自生地は県の天然記念物にも指定されています。

## 「手作り」

次長 吉永 義広

4月末の3階展示場リニューアルオープンに始まった今年度は、その効果もあって昨年度より入館者数が増加傾向にあるようです。5月の大型連休では、昨年度の約2倍のお客様にご来館いただきました。

当館では、まず鹿児島県内の動植物、岩石等の自然資料を収集するとともに、その整理・保管をしながら調査・研究を進め、その成果を広く県内外に発信しています。そして、鹿児島島の豊かな自然に対する理解と意識を高めていただくための学びの場として、親しみやすい開かれた博物館づくりを目指しています。

そこでまず、県民の方々に当館の存在を知っていただき、来館していただくために、

企画展などのさまざまなチラシやポスターを作成し、学校等への配布や各種店舗への掲示などの広報活動を展開しています。

企画展のパネルはもちろんのこと、これらのチラシ等も、実は、そのデザインやキャッチコピー等専門業者に一切委託せず、全て当館のスタッフ全員で考案し作成しています。その外にも、缶バッジ等のイベントで使用するグッズはもちろん、当館外壁の懸垂幕等も手作りです。

わざわざ当館に足を運んでいただいたお客様が、「もう一度行ってみたい」と思える博物館を目指し、スタッフ一同心を込めたさまざまな工夫を凝らしながら皆様をお待ちしております。

## 蔵出し博物館 奄美大島・徳之島の自然

博物館には、標本や剥製など15万点を超える資料が収蔵されています。その中で常設展示されているものは、5000点ほどしかありません。大部分の資料は収蔵庫に保管されており、一般の方が目にする機会は、ほとんどありません。蔵出し博物館では、そのような収蔵資料を期間限定で展示しています。今年は、9月29日から11月25日までの会期中、世界自然遺産登録を目指す「奄美大島」と「徳之島」に関する資料を展示します。

奄美群島は大陸から分離し、島々が成立していく過程で、独自に進化したアマミノクロウサギやアマミシカワガエルなど、国際的にも希少な固有種が数多く見られます。博物館では定期的に奄美群島を訪れ、貴重な生物の標本や映像資料などを収集してきました。今回はその中から選りすぐったものを展示します。ぜひお越しいただき、「奄美大島」と「徳之島」の魅力を感じていただければと思います。ご来場をお待ちしております。



収蔵庫内の剥製



アマミマルバナエクワガタ



県鳥のルリカケス



オオアマミテンナンショウ

## 3階リニューアルが完成しました！

平成30年4月27日、27年ぶりとなる本館3階のリニューアルが完成し、オープンしました。

今回の展示を作り上げる中で、特に工夫したのは「展示内の文字を少なくする」ことです。それぞれの剥製や標本が持っている情報はいろいろありますが、まずは「本物を見よう」ということを第一にしました。展示の解説は「ポケット学芸員」というアプリを利用して、スマートフォンやタブレットにより音声で聞けるようにしました。これによ

り、英語、中国語、韓国語にも対応できるようになりました。また、このアプリを利用してもらうために、館内で無料の無線LAN (Wi-Fi) も開設しました。

新3階の展示テーマは『鹿児島の人々と自然のつきあい方』です。鹿児島島の豊かな生物多様性と、そこに住む人々との関わり合いについて、是非展示を見て、皆さんなりに感じ取ってください。その上でご質問などがありましたら、遠慮なくお声をかけてください。

リニューアルされた会場は、標本類の入れ替えも簡単にできるように工夫しました。ご来場いただく度に「あれ？これは初めて見る標本だぞ！」と思ってもらえるようにしていきます。

「いつも、どこかが、変わっている」これからの県立博物館に、どうぞご期待ください。



## 人と共に生きる鹿児島島の自然遺産収集保管事業

鹿児島県は南北600kmにおよび、多くの離島を有しています。そのため各地域ごとに環境が異なり、そこにすむ生物も様々です。それらの分布状況を明らかにする目的で、平成28年から5年間「人と共に生きる鹿児島島の自然遺産」収集保存事業を行っています。



アマミノコギリクワガタ（悪石島産）

トカラ列島は地球規模で見ても、東洋区（亜熱帯）と旧北区（温帯）との境界地帯です。昆虫分野では、以前からこの地域に注目し、調査を続けてきました。アマミノコギリクワガタ（トカラ列島亜種）は口之島が分布の北限であり、キマダラセセリは県本土から屋久島を経て中之島を南限として分布しています。他にも、屋久島や奄美大島にいるにもかかわらず、トカラ列島が分布の空白地帯になっている種が見られるなど、ここは興味深い地域です。

また、平成16年に十島村では昆虫保護条例が施行され、アマチュアの研究者が気軽に調査できなくなりました。そのため、この地域

の情報が少なくなっており、県立博物館として調査する使命感もあります。

その成果の一つとして、平成30年3月発行の鹿児島県立博物館研究報告37号に、「トカラ列島のチョウ類」という報告をまとめました。主に今まで博物館研究報告に掲載されてきたこの地域のチョウに関して、種ごとに情報を整理しました。この報告は県立博物館のホームページで見ることができます。

この作業で明らかになったのは、調査していない地域、時期があるということです。たとえば悪石島の春については、博物館で一度も調査したことがありませんでした。

そこで、平成30年5月下旬に調査を行い、今回、初めてナミエシロチョウが春に多数確認できました。また、北限種であるユミセオオアリのオスも採集できました。



ユミセオオアリのオス（悪石島産）  
悪石島から沖縄島にかけて分布する。

鹿児島島の豊かな生物多様性を紹介するためにも、今後も県内各地で資料収集を続けていきたいと思えます。



フリイ岳展望台から見た口之島の西之浜港

2016年2月29日、フェリーとしまの欠航が決まり、延泊することになった調査日。港に押し寄せる白波が、島に閉じ込められる原因になりました。右奥にかすんで見えるのは中之島。

## 展示紹介

## 第10回博物館まつり

5月20日（日）に第10回博物館まつりが、行われました。晴天の下で家族連れを中心に、参加者はのべ8,000人を超えて大盛況となりました。科学教室や楽しい実験などをおとして、より多くの県民の皆様にご当博物館の活動を広く知っていただくという所期の目的を達成できたものと考えています。

この博物館まつりを行うにあたってどうしても必要なのが、中高生・一般ボランティアの方々の協力です。今回はなんと158名のボランティアが参加して下さり、受付、スタンプリー景品の配布、人数カウント、科学実験等の業務をしていただきました。たくさんのボランティアの方々に手伝っていただき、それぞれの持ち場で一生懸命に活動している様子は、係としてもうれしく思いました。

イモリやザリガニなどにさわれる、毎年大人気の「ふれあいコーナー」を今年はエントランスで行ったので、イベントの雰囲気は例年に比べて増していました。別館恐竜化石の前でも液体窒素を用いた実験を行い、来館者が別館にも足を伸ばして下さる機会を増やすことにもつながりました。博物館職員とボランティアの方々が協力して、回を重ねることにより充実した内容になっていると思います。

10回の開催を重ねる中で改善してきましたが、まだまだ課題も残っています。更に検討し、よりよい運営を計画して、今後も県民の皆様にご親しまれる県立博物館のイベントでありたいと思います。



博物館まつり当日のエントランス周辺

入口にイモリやヘビなどのふれあいコーナーを設置したので、賑やかな雰囲気になりました。

## 学芸室の窓から



当館公式Facebookページ画面

先日、いくつもの手続きを経た末に、当館公式Facebookページの運用を開始しました。SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を用いることで、当館の活動や鹿児島県の自然についての情報を、いつでもどこでもリアルタイムで発信できるようになりました。

現在既に300人を超える方にフォローしていただいておりますが、より多くの方々に当館の情報をお伝えしたく、担当者は日々投稿する写真や記事の準備に頭を悩ませています。読者からページへの「いいね！」が届くと、担当者は喜び、より一層記事の投稿に邁進するようになります。皆様からの「いいね！」を心からお待ちしています。

## 当館公式FacebookページURL

<https://www.facebook.com/kagohaku/>

QRコード



## ●鹿博だより 編集・発行 鹿児島県立博物館

〒892-0853 鹿児島市城山町1番1号

TEL 099-223-6050 FAX 099-223-6080

ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/hakubutsukan/>

